



御正月

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



今年のお正月は穏やかな良い天気に恵まれて、私達老夫婦にはとても良い正月でした。

すっかり綺麗に磨いたお仏壇に御祝い膳を供えてから屠蘇を頂き、家族で祝い膳について雑煮を頂きます。その内に年賀状が届き、例年通りに「アッ、しまった。忘れてた！」などということがあってから、昼過ぎになってブラブラと近所に住む兄の家へ行き、会津松平家御自慢の「鴨雑煮」を食べてから近所をぐるりと散歩して回りました。朝昼と御餅を頂くと二キロは体重が増えたように感じますから散歩は大切です。

お正月の住宅街はとても静かで無人の街のようでした。何時も駐車している車が無く松飾りを出していないお家も多かったのは、お国に帰られたのか、外国へ遊びに行かれたのかと思いますが、なにか折角のお正月が唯の長い「御休み」に

なつてしまった様なのは少し寂しく感じましたので、もう六〇年も昔の徳川家のお正月の様子を書いて見ます。

私が中学二年の時に養子に來た徳川家の祝い膳は朝八時から始まりました。この日だけは和室に二人一人脚のついた御膳で、二の膳には大きな鯛の塩焼きがありました。最初の時にこれは美味そうだと早速その鯛に箸を付けたところ養父の家正から「これは睨み鯛といって、三ヶ日の間は見るだけなんだよ」と笑いながら教えられました。

祝い膳がすむと、家令や家扶、事務所の男性陣が並んで一人一人御祝いを述べ、つぎに女性達と和服で並んで御祝いのお辞儀をしました。父はその挨拶が終わるとモーニングに着替えて宮中と各宮家への年賀に出掛けます。

私の方は近所の実家に鴨雑煮を食べに行くのは、先ほど書きました通り現在も同じです。

私の代になってからは宮中には行かず、秩父宮、高松宮の御両家には私はモーニングを着て夫婦で御年賀に伺いました。秩父宮妃は会津松平家の、高松宮妃は徳川慶喜家の御姫様でしたから、子供のころから可愛がって頂いた本当に懐かしい宮様方でした。

すっかり昔話になってしまいました。最近の祝日は三連休にする為に日が変わってしまい、一体何を国として祝うのか解らなくなってきました。流石に御正月は今日でも全く別格で、多くの方々が家族揃って迎えられるのは素晴らしいことです。出来たら皆で松飾りをつけて国旗を揚げて、夫々の御家の伝統の御雑煮と御節料理をお子様方に伝えて頂きたいものです。



昭和32年1月1日の静岡駅前バス停、行き交う年始まわりの人々(写真撮影:海野幸正氏)